

村山 幼児教育施設の連絡協設立



市内の幼児教育・保育施設関係者が参加した連絡協議会の設立総会
＝村山市役所

幼児教育の質の確保と向上を目指す村山市幼児教育・保育施設連絡協議会の設立総会が26日、市役所で開かれた。市では、関係機関が情報を共有し、相互交流を深めながら「保育水準の底上げを図り、より良い施設の運営につなげていきたい」と期待を寄せている。

保育水準アップへ連携

視察や討議、先進例を学ぶ

市が今年3月に策定した子ども・子育て支援事業計画「むらやま子育てあいあるプラン（プラン）」の一環。

「家族や地域の愛情に包まれ子どもが健やかに育つまち」を基本理念に、▽家族に寄り添う子育て支援体制の充実▽心身ともに健康で安心できる体制づくり▽さまざまな困難への適切な対応や支援▽地域に愛着を持てる憩いの場や居場所づくりの四つの基本目標を掲げている。

同会のメンバーは市内にある幼稚園や保育園、認定こども園、ベビーホールの園長や施設長など13人で構成。保育施設の視察や情報交換、グループ討議を重ねながら、保育士の質の充実に取り組んでいく。また同市出身で東京大大学院教育学研究科の遠藤利彦教授を招いた講演会も開催し、先進的なケースを参考にしながら、幼児教育のクオリティーを高めていく。

設立総会で、来賓の志布隆夫市長は「いろんな角度から新しいものを取り入れ、幼児教育のレベルアップを図ってほしい」とあいさつ。会則を承認した後、会長に選ばれた戸沢保育園の井上信也園長は「子どもたちのために実のある研修を進めていきたい」と話していた。

（板垣仁樹）